

「輸送・貯蔵専門調査会」2017年度会員募集について

2017年
一般社団法人 日本原子力産業協会

当協会は、産業基盤強化活動として、「輸送・貯蔵専門調査会」を設置して、専門分野に関する情報の共有化、業界の相互交流の場を提供し、輸送・貯蔵関連産業の育成・発展を図るための業際活動を実施いたしております。具体的には定例会において、講演、パネル討論、施設見学および意見交換を実施いたしております。

つきましては、各種関連業務に従事される方々におかれまして、多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

○会員募集要綱

1. 趣旨 別紙－1

※参考資料に活動実績を添付します。

2. 調査会年会費：1名につき（消費税8%を含む）

日本原子力産業協会の会員企業・機関にご所属の方……140,400円
（準会員：21,600円）
上記以外の方……………280,800円
（準会員：43,200円）

同企業・機関にご所属の2人目からは、準会員制度の適用があります。

年会費は、定例会合費、資料代等活動の運営に充当します。

ただし、施設見学会等の特別な費用は除きます。

3. お申込み

以下の5項目について下記問い合わせ先まで、メール等にてご連絡下さい。

- ①（ご登録者）氏名・フリガナ
- ②会員の種類（正会員もしくは準会員）
- ③連絡先（会社（団体）名、所属・役職、住所、電話、FAX、E-mail）
- ④請求書送付先（※上記連絡先と異なる場合にご記入下さい）
- ⑤ご希望の講演テーマ・講演者、施設見学先（※ご意見・ご要望等がございましたら、ご記入下さい）

4. 問い合わせ先

一般社団法人 日本原子力産業協会 地域交流部
〒102-0084 東京都千代田区二番町11-19 興和二番町ビル 5階
TEL:03-6256-9314 FAX:03-6256-9310
E-mail:yschosakai@jaif.or.jp

以 上

「輸送・貯蔵専門調査会」について

趣旨：

放射性物質輸送は、原子力開発利用の進展にともない多種・多様化している。特に近年では、使用済燃料の中間貯蔵、MOX 燃料製造、原子炉廃止措置など諸情勢の新展開に対し、所要の機器やシステムの研究開発および技術的対応、規格基準の整備など、適確に対応していくことが求められている。さらにこれらは、国際標準や国際条約の要件を満たすことも必要である。また、燃料、廃棄物の貯蔵とのインターフェイスが重視され、システムとしての技術開発も重要となっている。

「輸送・貯蔵専門調査会」は、原子燃料物質等の輸送および貯蔵に関する研究・技術開発動向、ならびに関連法令や技術基準の国際動向などの現状および将来見通し、課題・対策などに関して、講演、パネル討論、関連施設の見学および意見交換を通じ、専門情報の提供・交流を行い、産業界の発展に資することを目的とする。

【コーディネータ】

有富 正憲 東京工業大学 名誉教授、産学官連携研究員

【副コーディネータ】

伊藤 大一郎 原燃輸送(株) 設計・開発部 規格基準グループ グループマネージャー

【活動内容】

参加会員から希望テーマ(講演・見学先)の提案を受けた上で、それに基づき企画し、年間7回(2017年7月から1年間)程度の定例会合を実施する。テーマは、半期ごとに幹事会にて検討し、会員にお知らせする。

【テーマの例】

- ① IAEA を中心とする国際動向および国内法令、規則等の改定動向
- ② 国内および海外における使用済燃料の中間貯蔵、原子燃料物質の輸送の現状と将来の課題
- ③ 学会、および民間基準策定の動向と課題
- ④ 原子燃料サイクル施設と輸送問題の検討
- ⑤ 廃炉や設備更新に伴う大型放射性廃棄物や大量の放射性廃棄物の処分に関する輸送の課題等
- ⑥ 地震に伴う原発事故の現状と今後の取組み

(参考資料)

2016年度の活動実績

(敬称略)

No.	開催日	テーマ	講演者
第 77 回 2016-1	7月 26 日	①LLW ボルト折損事象 ②サルベージ技術について ③放射線防護と ICRP ー活動と今後の展望ー	垣内 祥光(原燃輸送) 岡部 幸夫(原燃輸送) 木田 聡範(深田サルベージ建設) 佐々木 道也(電中研)
第 78 回 2016-2	9月 27 日	①危険物の海上輸送規則 ②米国貯蔵許認可更新に関する NUREG の改訂 ③RI 輸送における温故知新	濱田 高志(日本海事検定協会) 亘 真澄(電中研) 五味 邦博(RI 協会)
第 79 回 2016-3	10月 20 ～21 日	見学会 中国電力(株) 島根原子力発電所	島根原子力発電所 概要説明と見学
第 80 回 2016-4	11月 29 日	PATRAM2016(神戸)報告 1)日本で開催!?(はじめに) 2)PATRAM2016 の準備、運営 3)興味深い発表がたくさん ①技術分野1(設計、輸送貯蔵など) ②技術分野2(解析、収納物など) ③技術分野3(運搬方法、規制など) ④技術分野4(プレナリー、ポスター発表) 4)発表だけじゃない(展示、晩餐会など) 5)終わってみれば(総括)	伊藤 大 一 郎(原燃輸送) 近内 亜紀子(海技研) いしこ 石生 大 一(三菱重工) 影山 典広(トランスニュークリア) 藤田 佳之(原燃輸送) 伊藤 大 一 郎(原燃輸送) 山崎 俊明(日軽金ア外) 伊藤 大 一 郎(原燃輸送)
第 81 回 2016-5	2月 14 日	①キャスクメーカーの輸送貯蔵容器の開発の取り組み ②核燃料物質輸送における交通事故を想定した緊急時対応訓練	神戸製鋼/トランスニュークリア、東芝、 日立 GE、日立造船、三菱重工 北村 隆文(エイ・ティ・エス)
第 82 回 2016-6	3月 21 日	①使用済燃料対策について ②使用済燃料再処理機構について ③原子力安全文化を考える ④IAEA 輸送事故時ガイド文書について	橋場 芳文(経産省) 渕上 純一郎(使用済燃料再 処理機構) 小鍛治 市造(オー・シー・エル) 伊藤 大 一 郎(原燃輸送)
第 83 回 2016-7	5月 23 日	①検査制度の見直しに対する事業者の考え方および今後の進め方について ②地層処分に関する地域の科学的な特性の提示に係る要件・基準における輸送の役割 ③IAEA 輸送規則 2018 年版について	尾野 昌之(電気事業連合会) 三枝 利有(電中研) 近内 亜紀子(海技研)

2015年度の活動実績

(敬称略)

No.	開催日	テーマ	講演者
第 70 回 2015-1	7月 14 日	①科学コミュニケーションとは何か ②英国 RAMTRANS2015 及び米国 Used Fuel Management 2015 国際会議報告 ③海外での大型機器輸送について	小出 重幸(JASTJ) 三枝 利有(電中研) 伊藤 大一郎(原燃輸送) 森本 康裕(神戸製鋼所)
第 71 回 2015-2	9月 15 日	①IAEA／使用済燃料管理に関する国際会議 ②核セキュリティ:原子力事業者の役割 ③世界原子力輸送協会(WNTI)の活動について	亘 真澄(電中研) 野呂 尚子(JAEA ISCN) 藤田 佳之(原燃輸送)
第 72 回 2015-3	10月 15 ～16 日	見学会 中部電力(株) 浜岡原子力発電所	浜岡原子力発電所 概要説明と見学
第 73 回 2015-4	12月 8日	①使用済燃料貯蔵施設に係る特定容器等の設計の型式証明について ②IAEA 輸送規則の改定動向(TRANSSC31 報告) ③IAEA 活動報告 —3年間の軌跡—	市橋 健(三菱重工業) 近内 亜紀子(海技研) 熊野 裕美子(東京電力)
第 74 回 2015-5	2月 2日	①原子力を取り巻く環境と使用済燃料の貯蔵について ②諸外国における輸送・貯蔵に係る最新動向 ③再生エネルギー拡大と全面自由化に向かう電力システムの課題と方向	有富 正憲(東工大) 阿部 真千子(三菱総研)他 岡本 浩(東京電力)
第 75 回 2015-6	3月 22 日	①ISO 規格の国内対応 ②燃焼度クレジットの世界における現状とわが国における課題 ③世界のエネルギー・原子力見通しとインドの原子力開発動向(概観)	松田 昭博(筑波大学) 横江 大(トランスニュークリア) 小林 雅治(JAIF)
第 76 回 2015-7	5月 20 日	①IAEA 輸送核セキュリティ動向 ②放射性物質の海上輸送について ③PATRAM2016 の紹介	阿南 徹(原安技センター) 永田 光男(イースタン・カーライナー) 有富 正憲(東工大) 伊藤 大一郎(原燃輸送)

2014年度の活動実績

(敬称略)

No.	開催日	テーマ	講演者
第 63 回 2014-1	7月 15 日	①核燃料物質等車両運搬規則等の改正について ②海外での PA 活動 ③近年の海外での輸送トラブル ④原子力人材育成ネットワークについて	吉山 賢司(国交省) 小松 隆(ORC) 伊藤 大一郎(原燃輸送) 木藤 啓子(JAIF)
第 64 回 2014-2	9月2日	①使用済核燃料貯蔵の基礎 ②使用済み燃料貯蔵の世界の動向 -アメリカにおける動向 ③使用済み燃料貯蔵の世界の動向 -欧州における動向	三枝 利有(電中研) 亘 真澄(電中研) 石川 智之(CTC)
第 65 回 2014-3	10月9 ～10日	見学会 リサイクル燃料貯蔵(株) リサイクル燃料備蓄センター	リサイクル燃料貯蔵(株)概要説明 リサイクル燃料備蓄センター見 学
第 66 回 2014-4	12月16日	①放射性物質輸送関連国内規則の改正について (平成 27 年 1 月施行) ②確率論的リスク評価(PRA)の概要／リスク情 報活用と規制運用 ③福島・除染廃棄物輸送について	広瀬 誠(東工大) 他 桐本 順広(電中研) 高橋 忠克(原燃輸送)
第 67 回 2014-5	2月 17 日	①東電福島事故から学ぶ —レジリエンスエンジ ニアリングの観点から— ②余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検 査方法 —日本原子力学会標準案について— ③2015 年 IAEA 輸送規則見直しサイクルについ て	吉澤 厚文(原燃輸送) 都筑 康男(原安進) 近内 亜紀子(海技研)
第 68 回 2014-6	3月 24 日	①原子力安全規制のあり方—法学的観点から ②日米原子力協定について	櫻井 敬子(学習院大学) 遠藤 哲也(元ウィーン代表部大使)
第 69 回 2014-7	5月 26 日	①福島第一原子力発電所 使用済燃料プールか らの燃料取り出しについて ②使用済燃料中間貯蔵施設の現状 ③最近の欧州の原子力動向	徳森 律朗(東京電力) 高橋 雅彦(リサイクル燃料貯蔵) 小林 雅治(JAIF)